

2023_1025「夕暮れ浅間山モクモク（動画）」日々の理科 3366号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

浅間山は活火山です。活火山と言っても「富士山も活火山です」と言うのとは格がちがいます。山頂からは常に噴気を上げ続け、数年に一回、噴火をしています。関東甲信の「火山」の中では、間違いなく最も活発に活動している火山と言えるでしょう。

浅間山の景観的な魅力は二つあります。一つは植物が繁茂する前に、短い周期で噴火するので、植生が貧弱で標高が低い割に山頂付近が荒涼としていて、いかにも活火山らしいことです。もう一つは、ほぼ365日火口壁内で噴気活動があり、常に山頂から白煙をあげていることです。このように常に山頂に噴気が見られる活火山は、日本では非常に稀です。

時にその噴気活動が非常に盛んになり、まるで噴火しているように見ることがあります。特に夕暮れ時に逆光になると、噴気が黒っぽく見えるので、私でも噴煙と見間違えることがあります。しかし「噴火」とは、固体の火山碎屑物（火山灰、火山弾など）や溶岩が火口壁を越えて噴出した場合だけを指します。日常的な浅間山の噴気の成分は、水蒸気、それが凝集した水滴、二酸化硫黄、硫化水素などの火山ガスです。従って、日ごろの浅間山の白煙を「噴煙」と呼ぶのは誤りです。

(2023年10月下旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

